

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成26年10月10日

施設名	埋蔵文化財センター	所管課	教育委員会文化財課
-----	-----------	-----	-----------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成25年4月1日～平成30年3月31日
施設所在地	南国市篠原1437-1		
事業内容	○施設管理(埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行う) ○出土文化財等資料管理(出土遺物を適切に保管・管理し県内外からの依頼に応じて貸出等を行う) ○広報普及(発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開することにより埋蔵文化財に対する保護の推進と普及啓発を図る)		
施設内容	面積:本館(1,038.68㎡) 北館(518.40㎡) 南館(1,045.92㎡) 収蔵庫(1,527.52㎡) 開館時間:午前9時～午後5時まで 休館日:土・日・祝祭日, 12月29日～1月3日 (巡回展の期間中、公開講座等開催日は開館) 利用料金:無料		
職員体制	常勤職員: 5名		

2 収支の状況

単位:千円

		平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(予算)
収入	県支出金	35,841	42,643	46,424
	使用料・手数料	0	0	0
	その他	383	424	539
	収入計 (a)	36,224	43,067	46,963
支出	事業費	2,954	3,525	7,559
	管理運営費	14,175	14,438	14,534
	人件費	19,095	25,104	24,870
	その他	0	0	0
	支出計 (b)	36,224	43,067	46,963
収支差額 (a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成24年度(実績)	平成25年度(実績)	平成26年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	2,854	3,205	3,300
②利用者意見等の反映	<p>○利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) 展示公開(遺跡から出土した土器類の展示や展示解説板による説明)や親子考古学教室等での来館者には、開催のたびに備え付け用紙やアンケートにより意見や感想を求めニーズの把握に努めた。また、各学校現場での出前考古学教室の実施は、児童や教員にも概ね好評であることはアンケート等から見てとれるが、現状にとどまることなく新たな取り組みへの参考としている。</p> <p>[以下は、アンケート回答の一部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な説明で高齢者にも理解できた。非常に体系的で一層考古学が面白くなった。特に気候と人類の関係が濃いことが分かった。(「考古学からわかる歴史教室」より) ・数百年前の祖先の生活の跡が理解でき良かった。(「遺跡説明会」より) ・今日初めての埋蔵文化財センターに来たのでとても楽しかった。(「親子考古学教室」より) ・遺跡(弥生時代後期か)と歴史現地の見学を兼ねた学習がよいのでは。(「公開展示」より) ・自分は専門家ではないので1時間半の話を20~30分ぐらいにまとめて、大雑把に話してくれた方が分かりやすい。(「特別展」より) ・以前古代ものづくりに参加してとても楽しかった。子どもの興味、大切だと思う。(「イオンワークショップ」より) 		
③その他特記事項			

4 平成 25 年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	○協定書、事業計画書の内容に従って概ね適正な管理が行われた。 ○事故発生はなかったが、万一の時のために消防訓練等を実施し利用者の安全確保に努めた。
②利用者サービスの維持向上	○年間行事カレンダーの作成やホームページにより事業内容の情報発信とともに、講座への参加経験者に事業案内を送付する等で利用者数の確保に努めた。 ○公開講座等については、回数を増やしたり内容の精選に努め対応した。 ○センター内で企画調整会議や情報交換会議を開催し職員間の情報共有や知識の研鑽に努め、利用者に対して十分な説明ができるように努めた。
③利用実績	○出前考古学教室等で積極的に館外に出向いた。 ○昨年度比で351人増の入館者(目標:3,100人 実績3,205人)となり地道な館外活動等が一因と思われる。 ○今後、講座の充実と一層、広報に力を入れて行くことが重要である。
④収支の状況	○収入は県からの委託料のみであり、経費の節減に努めつつ適正な支出が行われている。
総合評価	B ○出前考古学教室は好評である。各種企画展示の開催や公開講座等の実施は知名度アップと考古学への関心の高まりと広がりにつながっている。 ○地域内の小中学校等と連携し協同で課外活動等を実施するなど新たな取り組みが見られた。 ○利用者サービスや施設管理については概ね適正にできている。 ○埋蔵文化財保護の中核施設づくりを目指す一方、埋蔵文化財に対する理解や利用者数を確保するため外部で地域展等を開催し県民に出土遺物等の実物に触れる機会や講座の開催等の広報に努めてほしい。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの